

赤潮・貝毒プランクトンの調査について

本日、環境調査と並行し、赤潮・貝毒プランクトン調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、赤潮発生の原因種であるカレニア ミキモトイ(注1)が最大0.2細胞/ml確認されました。現在の細胞数は非常に少ないですが、細胞数の急激な増加による被害発生の可能性も考えられるため、今後の海色や飼育魚の状態を注視し、飼育魚にストレスがかからないよう十分注意してください。

またプロロセントラム マイカンスが最大0.08細胞/ml、アカシオ サンガイネアが最大0.03細胞/ml確認されました。これらのプランクトンは細胞数が急激に増加すると周囲を貧酸素状態にし、魚介類を弱らせてしまう可能性があります、基本的には無害なプランクトンです。

また麻痺性貝毒の原因種であるギムノディニウム カテナータムが最大0.08細胞/ml、アレキサンドリウム属が最大0.02細胞/ml確認されました。

本日の調査においても、全調査地点にてケイ藻類が多く確認されました。他県の観察結果によるとケイ藻類の増加が見られた後に、有害赤潮プランクトンの増殖が確認された例もありますので、注意をお願いします。

今後、飼育魚や海色等に異常がみられる場合は、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡ください。

※(本日の調査は、海水100mlを1mlに濃縮し、プランクトンの検鏡を実施しています。)

採集地点 採水時間	水深 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	溶存酸素 (mg/l)	カレニア ミキモトイ	プロロセントラム マイカンス	アカシオ サンガイネア	ギムノディニウム カテナータム	アレキサンドリウム 属
片島(別図⑦) 採水時間 10:33 透明度 3.5 m	3.0	25.3	33.1	6.7	0	0.01	0.02	0	0
藻津②(別図⑩) 採水時間 10:44 透明度 5.5 m	7.0	25.2	33.2	6.9	0.13	0.04	0.01	0	0
藻津①(別図⑨) 採水時間 10:50 透明度 5.5 m	10.0	24.7	33.4	6.5	0.06	0.02	0	0	0
大島中央④(別図⑤) 採水時間 10:59 透明度 5.5 m	10.0	24.9	33.3	6.6	0.1	0.05	0.01	0	0
小筑紫中央①(別図⑬) 採水時間 11:05 透明度 5.5m	6.0	25.4	33.2	7.7	0.02	0	0	0	0
真珠 採水時間 11:12 透明度 4.5 m	10.0	25.0	33.3	7.3	0.05	0.02	0	0	0